

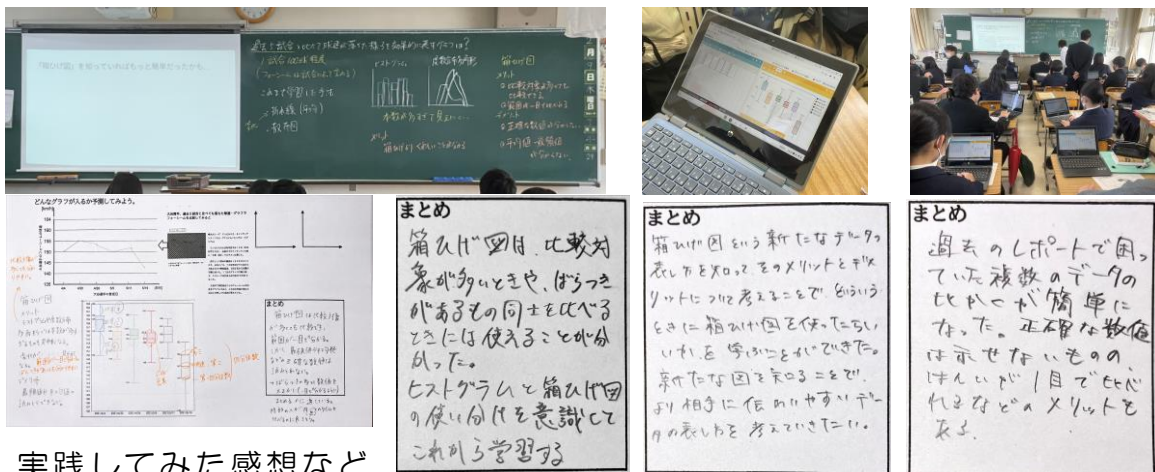
お茶の水女子大学附属学校園での実践を基にした 実践事例報告

1. 実践した学校園・授業者：岡山県立岡山操山中学校・福永義行
2. 学年・教科等・単元等：中学校第2学年・数学科・「箱ひげ図とデータの活用」
3. 基にした実践の学校園：お茶の水女子大学附属中学校
4. 基にした実践：「箱ひげ図の必要性を理解する」

岡山県授業レシピ勉強会～「使いこなす」を重視した「D データの活用」領域の授業づくり～（2022年12月28日）藤原大樹先生の講演発表より

5. 実践の概要（令和5年2月10日実践）

箱ひげ図とデータの活用の単元の導入の授業である。第一学年での学習内容の振り返りとSGRAPAの操作確認、箱ひげ図の必要性を理解することをねらいとした。昨年度、単元末レポートとして「反応速度が早いのは〇〇な人」を出題した際、3つ以上の層別データを度数分布多角形を用いて比較するグラフを作成した生徒が多くいた。本実践で、大谷選手の投球を箱ひげ図で表した後、このレポートを想起させ、複数のデータの分布をわかりやすく表現できる箱ひげ図の良さを一層感じられるようにした。



6. 実践してみた感想など

ワークシート左上に球速が落ちた様子を表すグラフを予想させたが、縦軸、横軸を入れた状態であったため、ほとんどの生徒が平均値や最高値で折れ線グラフを作成した。縦軸、横軸は不要であった。平均値や最高値の折れ線グラフで表すことに問題がないか問うと「中には速い球もあったかもしれない」と情報量の少なさをあげ、箱ひげ図は分布を表すことの理解につながった。